## 分割統治法

計算機アルゴリズム特論:2015年度

只木進一

# 分割統治法(Divide and Conquer)と再帰

- ■再帰で、よりサイズの小さい問題に分割
- →分割された、非常に小さい問題を解決する。
- →その後、小さな問題の組み合わせを繰り返し、全体の問題を解く

### 分割統治法としてのMerge-Sort

- ■長さnのリストを、すでに整列済みの 長さn/2のリストからの整列に,問題 を分割
- ■長さn/2の整列済みのリストからの整列の計算量:最悪でn
- ■分割の回数log<sub>2</sub> n
  - ■分割毎にn個の要素の操作
- ■計算量: nlog<sub>2</sub> n

#### 最近接点:問題設定

- ■二次元空間内の点の集合  $P = \{p_k | 0 \le k < n\}$
- ▶最も距離の近い点の組を求める
- ■単純に点の組の距離を調べたのでは、 n×(n-1)/2個の組について、調べる 必要がある

#### 最近接点:準備

- $\ge 全ての頂点を<math> x$ 座標の順で並べたリスト $X_0$
- $\blacksquare 全ての頂点を<math>y$ 座標の順で並べたリスト $Y_0$
- → それぞれ、nlog2n回の比較で生成できる

#### 点のリストP



x座標でソートしたリストX<sub>0</sub>

y座標でソートしたリストY<sub>0</sub>

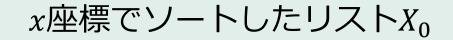
#### 最近接点:分割

- $\blacksquare$ 組 $(X_i, Y_i)$ に対して、 $X_i$ を左右  $(X_{i+1}^L, X_{i+1}^R)$ に分割
- ■対応して $Y_i$ を割り当て、 $(Y_{i+1}^L, Y_{i+1}^R)$ とする。

#### 最近接点:分割

- ■対応して $X_i$ を割り当て、 $(X_{i+1}^D, X_{i+1}^U)$ とする。

▶注:いずれのリストもソートされている





左右に分割

 $X_1^L$ 

 $X_1^R$ 

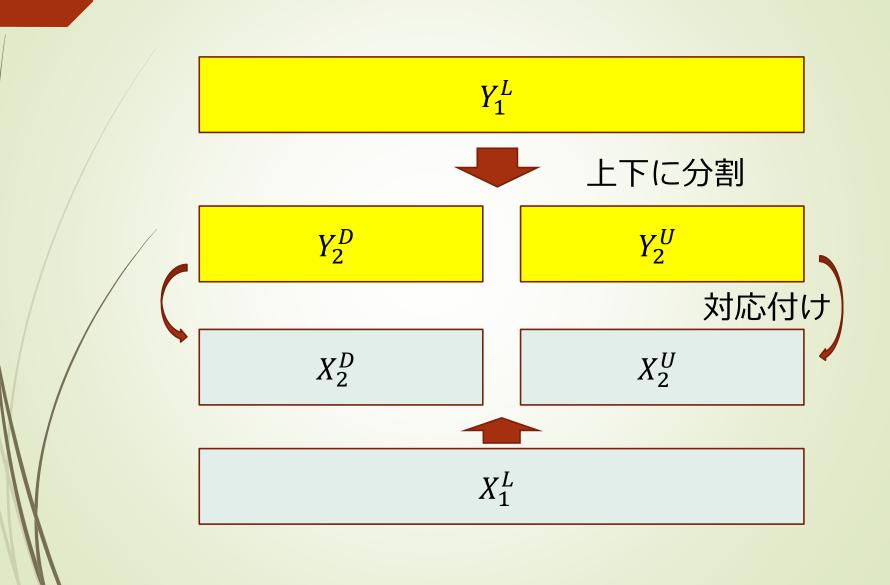
対応付け

 $Y_1^L$ 

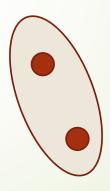
 $Y_1^R$ 

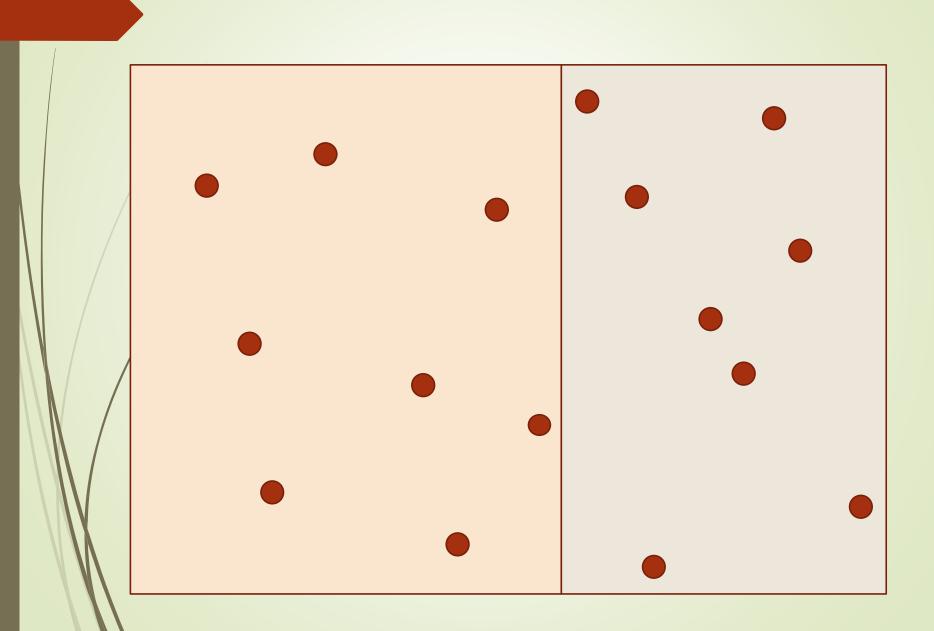


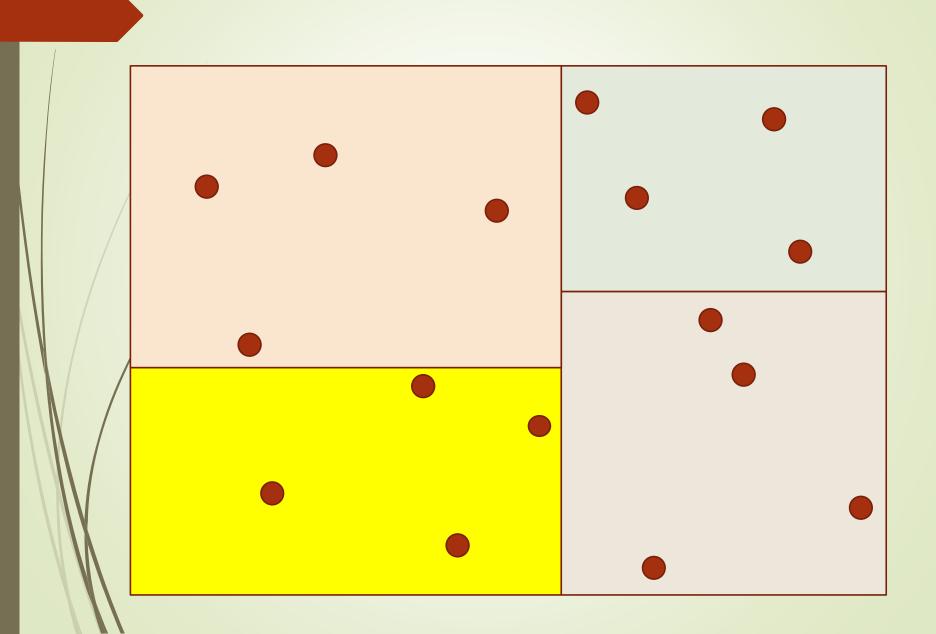
y座標でソートしたリストY<sub>0</sub>

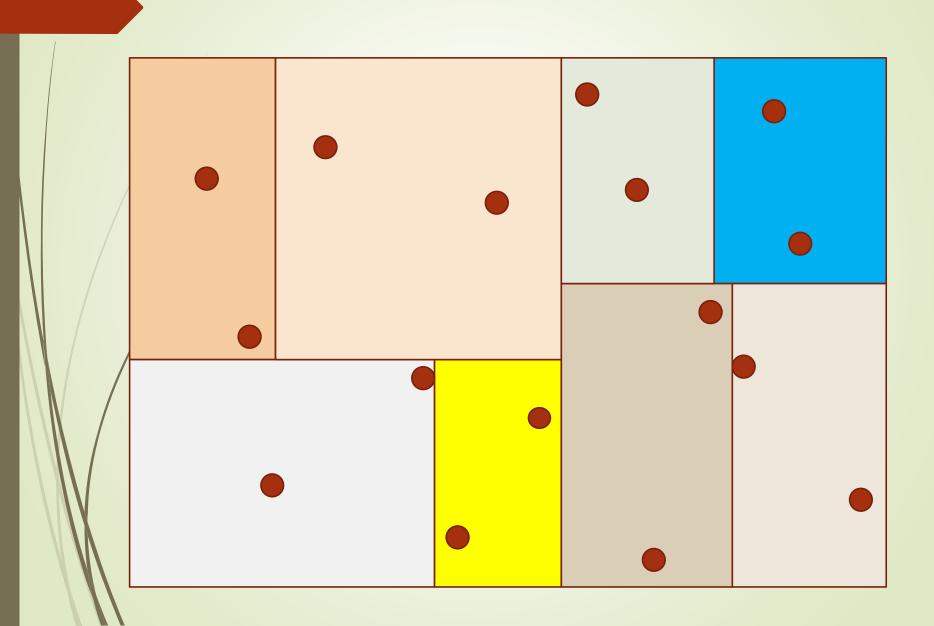


■含まれている点の数が3以下になった ら、最短距離の点の組を返す。



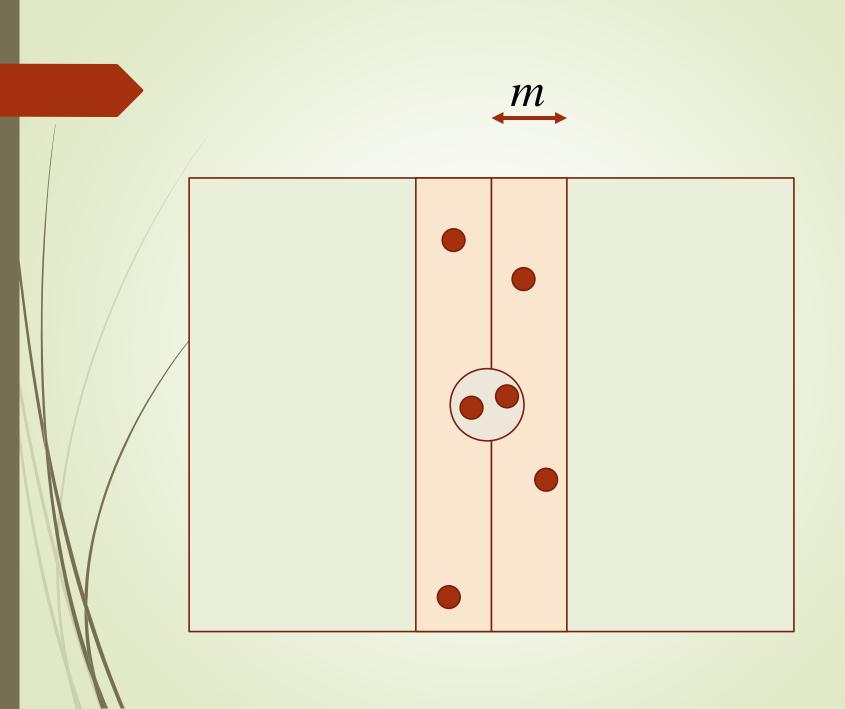


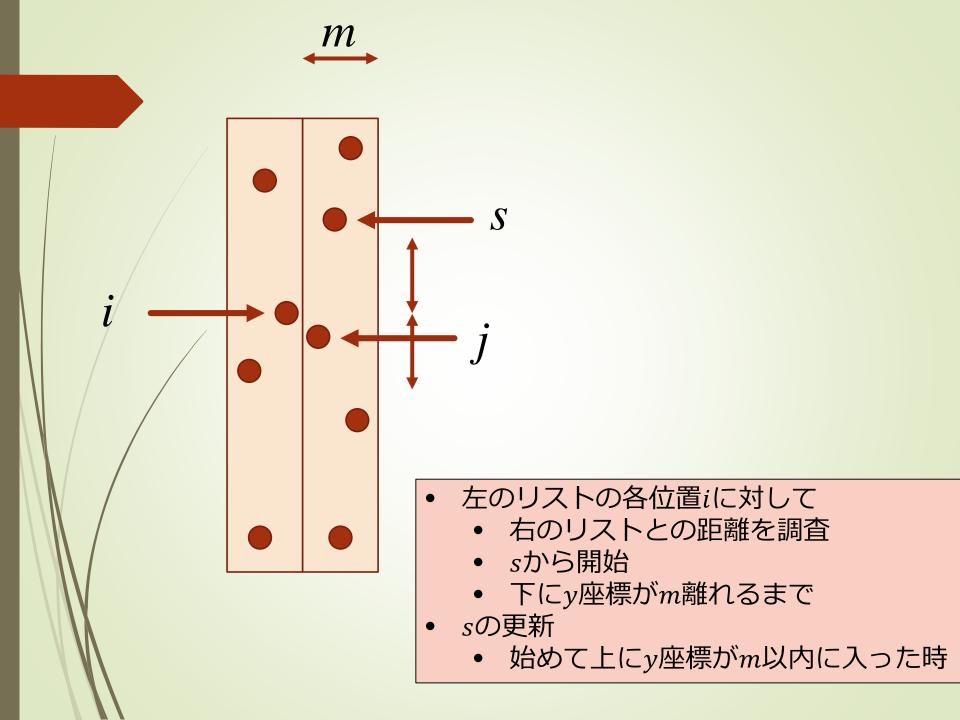




#### 最近接点:統合

- ■二つに分割した空間内のそれぞれの最 近節点の組pとqを得る。
- **▶**pがqより、距離が短いとし、その距離をmとする。
- ■境界から距離m以内の点について、最 近接点を求める





```
PointPair findMin(左リストl, 右リストr, 既知の組p){
d_{\min}=pの距離
p<sub>new</sub>=p;//点の組
s=0://右リストの開始点
forall(左リストの点p) {
  s_{\text{start}} = s; j = s;
    while (r_{i,v} < p_v + d_{\min}) {
      q = r_i;
      if (q_v > p_v - d_{\min} \&\&s_{\text{start}} == s) \{s = j\}
       if (distance(q,p) < d_{\min}) {//最短点の組を発見
         d_{\min} = \operatorname{distance}(q, p);
         p_{\text{new}}にpとqを登録}
      j + +;
      if (j ≥ |r|) {//右リスト終了
          break;}
 }}
 return p_{\text{new}};
```